2018全国コミュニティ・スクール研究大会IN三笠 第1分科会「コミュニティ・スクールの効果的な導入」

### 既存の取り組みを活かした コミュニティ・スクールの導入

北海道士別市教育委員会社会教育課兼学校教育課 参事・社会教育主事 藤 田 泰 昭

### はじめにいいわけを

- ■士別市は今年4月に、コミュニティ・スクールを導入しました。
- ■まだまだ「ひよっこ」の状態です。
- ■正直、全国の研究大会で発表するのは、おこがましい気持ち。
- ■でも、士別の先生方や協議会委員には、前向きに取り組んでいます。
- ■本市において、どのように導入を進めたのかをお伝えします。
- ■ご意見、ご指導をいただくために、発表させていただきます!

# 士別市の概要



- ■北海道北部の上川管内に位置
- ■旭川市から北に約55km
- ■面積 約1,119km
- ■人口 19,088人 9,419世帯 (7月末)
- ■産業 農業を核とした第1次産業が主体
- ■地勢 名寄盆地に位置。天塩川の源流
- ■気候 夏冬ともに30度。積雪は120cm
- ■平成17年9月に士別市と朝日町が合併



### 士別市の個性

### ■未来型農業実践のまち

- ■サフォークランド士別
- ■合宿の里
- ■自動車等試験研究のまち
- ■水とみどりの里
- ■生涯学習のまち



### 士別市の個性

- ■未来型農業実践のまち
- ■サフォークランド士別
- ■合宿の里
- ■自動車等試験研究のまち
- ■水とみどりの里
- ■生涯学習のまち



### 士別市の個性

- ■未来型農業実践のまち
- ■サフォークランド士別
- ■合宿の里
- ■自動車等試験研究のまち
- ■水とみどりの里
- ■生涯学習のまち





# 士別市の個性

- ■未来型農業実践のまち
- ■サフォークランド士別
- ■合宿の里
- ■自動車等試験研究のまち
- ■水とみどりの里
- ■生涯学習のまち





## 士別市の個性

- ■未来型農業実践のまち
- ■サフォークランド士別
- ■合宿の里
- ■自動車等試験研究のまち
- ■水とみどりの里
- ■生涯学習のまち







### 士別市の個性

- ■未来型農業実践のまち
- ■サフォークランド士別
- ■合宿の里
- ■自動車等試験研究のまち
- ■水とみどりの里
- ■生涯学習のまち





### 士別市の小中学校

■小学校7校・中学校5校

市街地	上士別	多寄	温根別	朝日
士別小287 士別南小291 士別西小118 (H30閉校)	上士別小27	多寄小20	温根別小11	糸魚小38
士別中181 士別南中207	上士別中14	多寄中15 (H31閉校)		朝日中28
		-		
学校ごと	上士別CS	多寄CS	温根別CS	朝日CS
【H31導入】	【H30導入】			

### 士別市教育大綱

#### ■基本理念

士別市は、すべての市民が生涯のあらゆる段階で、様々な機会をとらえて主体的に学ぶことで、個性や能力を伸ばせる環境を整えます。

すべての子どもたちが、士別で育ち・学ぶことに誇りを持ち、自らの意思を持って、 人にやさしく、自分を大切にし、夢の実現 に向かって進む豊かな人格を養うことを目指します。

歴史と文化を尊重し、士別市が豊かな地域社会として発展していく主役となる人づくりをみんなの力で進めます。

#### ■基本目標(抜粋)

#### 【学校教育】

主体性と創造性を備えた、豊かな人格の子どもを育てる

#### 【社会教育】

市民が生きる喜びを実感できるよう、 学びの機会を充実させる

#### 【教育環境の整備】

時代や社会の変化に対応し、安全・安心で快適な環境を整える。

### 士別市教育大綱

#### ■基本理念

士別市は、すべての市民が生涯のあらゆる段階で、様々な機会をとらえて主体的に学ぶことで、個性や能力を伸ばせる環境を整えます。

すべての子どもたちが、士別で育ち・学 ぶことに誇りを持ち、自らの意思を持って、 人にやさしく、自分を大切にし、夢の実現 に向かって進む豊かな人格を養うことを目 指します。

歴史と文化を尊重し、士別市が豊かな地域社会として発展していく主役となる人づくりをみんなの力で進めます。

#### ■基本目標(抜粋)

#### 【学校教育】

主体性と創造性を備えた、豊かな人格の子どもを育てる

#### 【社会教育】

市民が生きる喜びを実感できるよう、 学びの機会を充実させる

#### 【教育環境の整備】

時代や社会の変化に対応し、安全・ 安心で快適な環境を整える。

### 士別市がCSに取り組む背景

- ■教育大綱の具現化
  - →士別で育ち・学ぶことに誇りを持ち、豊かな人格を養う
- ■少子化・人口減少の加速
  - →ふるさとを愛する心の育成
- ■子どもたちの生活形態の変化
  - →体験活動の機会の提供
- ■地教行法の改正(努力義務化)
- ■新しい学習指導要領への対応(社会に開かれた教育課程)

### これまでも連携・協働している

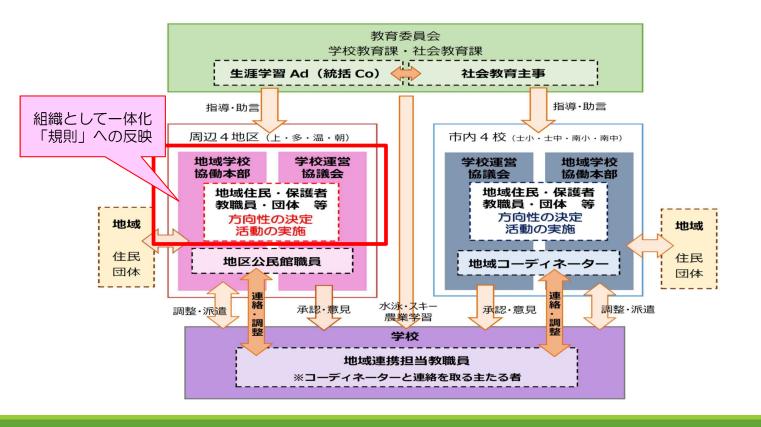
- ■地域人材を講師とした授業等
  - →農業学習、授業の一環としての公民館事業、合同運動会 等
- ■学校支援地域本部事業
  - →国の補助事業 H19~。水泳、スキー授業の補助
- ■学社融合推進委員会
  - →学校教育に社会教育の活用の在り方を協議。社会教育事業への協力
- ■家庭教育サポート企業等制度
  - →53企業。職場体験リスト

### 士別市の連携・協働の「土台」

- ■「生涯学習」のまち
- ■生涯学習インストラクター制度
- ■市民がボランティア活動を行う風土

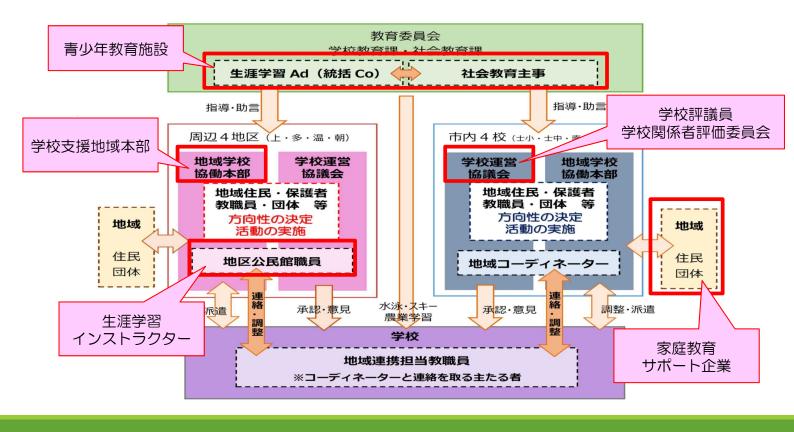
### 導入にあたっての考え方

- ■教育委員会がイニシアチブ
  - →設置するのは教育委員会の仕事
- ■社会教育主事のスキルを活用
  - →社会教育のノウハウを学校教育に活かす
- ■学校運営協議会と地域学校協働本部の一体化
  - →メンバーを同一に



## 導入にあたっての考え方

- ■既存のシステムの活用
  - →学校評議員・学校関係者評価委員会の廃止(発展的解消)
  - →学校支援地域本部事業(移行)
  - →生涯学習インストラクター、アドバイザーの活用(役割の拡大)
  - →家庭教育サポート企業(継続)



### 「学校が必要とする」仕組みに

- ■学校への理解促進
  - →全ての先生に対する説明の場
  - →「負担」はないわけではない。「どうせやるなら」
- ■学校の「負担感」を減らし、「期待感」を高める
  - →評議員、地域本部などの活用
  - →中心校に地域コーディネーターの学校配置(事務補助業務を付与)
  - →具体的な事例を示し、イメージを持ってもらう。「これでいいんだ」

### CS導入に向けた取り組み

- ■コミュニティ・スクール導入促進事業の活用(国補助)
- ■各地区に「CS推進委員会」を設置
  - →評議員・評価委員がベース
  - →年3回程度の会議
  - →CSの仕組みの理解と普及、協議会の体制づくり
  - →教育委員会職員がオブザーバーとして出席

### CS導入に向けた取り組み

- ■事務局校連絡会議の実施(2回)
- ■コミュニティ・スクール推進研修会の実施
- ■先進地視察の実施(占冠村・上士幌町)
- ■市広報紙への特集記事の掲載
- ■各地区における説明会
- ■士別市学校運営協議会規則の制定
- ■委員報酬等、予算の確保



### 導入に向けた不安をどう解消するか

- ■地域にとってCSという仕組みは理解しにくい
  - →「子どもたちのことを考え、行動する場」である
- ■地域学校協働本部って何なのかわからない
  - →一体化。そもそも「地域学校協働本部」という言葉は使わない
- ■協議会の会議で学校に意見なんて言えない
  - →「意見の言える」内容で話し合う
  - →「私たちにできそう」な内容で話し合う

### 成果と課題

- ■仕組みができた
- ■学校としての主体的な取組
- ■地域住民や保護者への理解促進
- ■協議会委員の意識向上
- ■コーディネーターのスキルアップ
- ■熟議の充実
- ■教育活動の改善と充実

### 今後の取り組み

- ■市街地地区CSの在り方の検討
- ■協議会委員や教職員等を対象とした研修会
- ■協議会の合同開催
- ■事務局校連絡会議の継続実施
- ■各学校の活動を発信(CS通信・FB等)
- ■地域の人材や団体とのネットワークづくり

### 「ひよっこ」がおこがましいですが

### ■学校

- →CSの充実は、学校側の「したたかさ」がカギ
- →学校の困り感を聴いてもらう場に
- ■教育委員会
  - →先生方と話を。「学校の文化」を理解
  - →学校教育と社会教育がお互いを知る努力
- ■協議会委員・地域住民・保護者
  - →学校ではなくてもできることがある。地域に何があるのか
  - →子どものために、先生方が「赴任してよかった」と言える雰囲気を

### おわりに

- ■学校の魅力、地域の良いところは何か
- ■今、わがまちには何があり、何が眠っているのか
- ■新しいものではなく、今あるものを活かす意識
- ■子どもたちは、ふるさとが好きか
- ■子どもたちは、ふるさとの人が好きか
- ■ふるさとの人は、地域の未来を見ているか

